

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174100461		
法人名	特定非営利活動法人 わたぼうしの家		
事業所名	グループホーム さんぼみち		
所在地	釧路市千歳町13番7号		
自己評価作成日	令和2年 11月 11日	評価結果市町村受理日	令和3年 1月 28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0174100461-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103		
訪問調査日	令和2年11月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・「共に支え合い、安心して老いられる地域づくりをおこなう」 ・「共同生活を営むひとり一人の尊厳を守り、より豊かな人生を送っていただく」の理念を柱とし、家庭的な雰囲気と環境の中で、その人らしさを大切にできる様な支援を心掛けている。入居者さまの今、出来る事を大切にしながら、入居者さまのペースで穏やかにのんびりと過ごして頂き、ご自分の思いを自由に、表現できる様な環境づくりを心掛けている。ご家族さまやボランティアの方達は、入居者さまの日々のご様子を共有して下さり、ご理解・ご協力のもとホームの運営を支えて下さっている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当事業所は自然環境のよい閑静な住宅地にある。生活環境も車で5分～10分走れば総合病院もあり、事業所前の道路は利用者の散歩コースになっているため、家族と一緒に散歩している利用者もいる。共有空間も明るく清潔で、天窓からたっぷり陽射しが入る土間のサンルームがあり、そこでは餅つきに利用される。台所から居間と食堂が見渡せるため、利用者の安全が確保できる。利用者は居室に籠ることなくソファ等で寛ぎ穏やかに暮らしている。管理者と職員は利用者や家族の話に耳を傾けて家族と利用者が不安なく暮らせるように支援を行っている。今はコロナ禍でボランティアの参加が少なくなっているが外回り(植木や花・畑)や食事作りで来訪している。地域住民は認知症を理解し、事業所の運営を理解されながら、利用者が地域の一員として暮らしている。災害時には拡声器でサイレンを鳴らすと地域住民が駆けつけるなど地域住民との協力体制が出来ている。家族や主治医・訪問看護師などの協力で看取りも経験している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議や、研修の中で、理念に基づいて、日々のケアを、意識して頂く機会を持ち、常に初心に戻って、実践に繋がれる様に、話し合いの機会を持っている。	管理者と職員は理念について会議の中で話し合い、常に日常生活の中で意識を持って実践に繋がっている。	家族に理念の説明を行っていく中で、利用者に対するケアの実践していく上で意見や要望を得ながら、日々のケアの向上に繋がっていく事を期待する。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	現在コロナ禍の状況である為、予防対策の一貫として、交流していないものの、コロナウイルス感染拡大防止対策前は、近所の方達が、ボランティアに来て下さったり、一緒に食事をしたり、また、町内活動に参加して、繋がりを深めていた。	地域住民による庭の手入れ(草取り、花の手入れ、芋・大根・苗の手入れ等)や収穫からその後の後始末などを行っているが、コロナ禍である為、感染予防に気を付けながら交流を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方達への理解や支援に対しては、地域の方達に、交流の中で、理解や支援の方法を、お伝えしていたが、現在は、コロナウイルス感染防止対策の為、行えていないのが現状である。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の中で、運営推進会議を书面開催とさせて頂き、現在は出来ていないが、これまでは、運営推進会議の中で、入居者様の日々の生活状況等をお伝えする事によって、委員のみなさまから、貴重なアドバイスを頂き、実践に繋がらせて頂いていた。	コロナ禍により運営推進会議の運営は书面開催とした。各委員に会議録を送付し、後日返答を得ている。前回、書面会議開始時に参加者から今後正常な会議になった場合に「家族の参加を増やしては」との意見があり、今後増やす方針で対応していく。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者や事務長・ケアマネジャーが、定期的に市の担当窓口に出向き、運営や福祉等の相談をしながら、助言やアドバイスを頂き、協力関係を結んでいる。	コロナ禍による感染予防と感染レベル状況を見つつ、理者や事務長が市担当者に出向き事業所の実情を話しながらアドバイスや助言、情報を得ながら協力関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々のケアの中で、常に身体拘束に対する情報の、共有に努めている。職員会議や研修を通して、職員の意識向上に努め、身体拘束をしないケアに、取り組んでいる。	身体拘束委員会を設置し、定期的に委員会活動を行い、職員会議や研修会の中で職員の拘束の意識向上に努め身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議や、研修を通して、虐待防止のケアに努めている。また、不適切なケアがない様にお互いに言葉で伝えられる職員関係を築けている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修や、実体験を聴く機会は、あるものの、まだ活用には、至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明には、時間をとり、丁寧な説明を心掛けている。また、いつでも、ご相談に關しての連携が図れる様、努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や、ケアカンファレンス等を通して、ご家族様の意見・要望をお話して頂ける機会を、積極的に持つようになっている。(コロナウイルス感染防止対策後は、書面や、お電話にて行わせて頂いている。)	コロナ禍の警戒レベルに沿って、家族の訪問を制限している。訪問時には出来るだけコミュニケーションを取り利用者の実情を話し、意見や希望があれば何時でも聞けるようにしている。通信「さんぼみち」は見易く家族に分り易くなっている。コロナ禍は書面や電話で連絡を取っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案について、日々話しやすい環境づくりに心掛けている。職員から上がった意見は、管理者を通して、法人の会議や、代表理事に伝えている。	管理者は日頃から何でも話し易い雰囲気づくりを心がけると共に、提案や意見を積極的に聞くようにし、得られた内容は運営に反映させるよう努めている。また、意見や提案の内容により、理事会や法人会議にて伝え、事業所の改善につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が、向上心を持って働ける様に、資格習得のバックアップ等の、整備に努めている。また、職員間でお互いがお互いを認め合える職場環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在、コロナウイルス感染拡大防止対策の為、直接、研修会に、参加する事は、出来ていないものの、書面やインターネットを利用しながら、職員に研修の機会を、設けている。また、職員がよりスキルアップ出来る様な環境づくりに取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワークを通じて、情報や質の向上などへのヒントを頂く事はあるものの、近年、GH協会への取り組み等には、人材不足により、なかなか参加出来ずらい状況にあった。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス前に、面談回数や、時間をとり、ご本人の思いを引き出せる様な、支援を心掛けている。ご本人が安心出来る、寄り添うケアを大切にしながら、職員間で共有し、信頼関係を構築出来る様に取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の事前カンファレンスの場等で、ご家族さまとも、何度もお話し合いを重ねた上で、ご理解して頂き、安心してご入居頂ける様に、信頼の構築に取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人さま・ご家族さまの、思いをくみ取り、必要と思われる場合には、他業種の専門職員の意見を伺うなど、ケアの方向性を見極めた支援が、行える様に、努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に、職員も入居者さまに、教わる姿勢を忘れず、ご支援させて頂く様に努めさせて頂いている。理念をケアの柱として、取り組んでいる。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人さまやご家族さまとの、関係性を大切にし、ご本人さま、おひとりお一人の尊厳を守り、尊重しながら、ご家族さまと協力し、ご支援させて頂ける様、努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人さまのご友人や、美容室などの馴染みの場所への訪問等、これまで築いてきた関係が続けられる様な、支援を行っていた。しかし、現在は、コロナ禍の中、なかなか行えていないのが現状である。	自然環境に恵まれた場所にあるため、コロナ禍にあっても散歩は出来るが、マスクをして散歩に行っている。馴染みの訪問美容が来訪している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活で、家事援助や、レクリエーション、お食事の場面などで、入居者さま同志での、関わりを積極的に持てる様、ご支援させている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、ボランティアとしての連絡を頂ける事も多く、良い関係性が出来ている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族さまやご本人様とお話を重ね、出来る限り、ご本人様の思いを引き出せる様に努めている。その人らしく暮らせる事を、大切に取り組んでいる。	日常生活で何にげなく話す言葉やつづやきを聞きもらさず、出来るか限り思いや希望の把握に努めている。意思表示が出来ない人は家族から話を聞いたりしながら本人本位に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族さまから情報を頂き、職員間で共有しながら、そのひとらしさを、生かせる支援が出来る様に、取り組んでいる。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のケアの記録や、職員会議での情報共有、毎月、モニタリングを行い、状況の把握、毎日の申し送り等を通し、一人ひとりの現状の理解を深められる様、努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人さまやご家族さまと、お話し合いの機会、主治医の先生にご相談、職員会議、モニタリング、職員間での意見交換等を通じて、改善について、定期的に話し合い、介護計画作成に取り組んでいる。	利用者や家族から希望などを把握し、モニタリングや職員会議等を通して介護計画を3ヶ月毎に作成し、利用者の状況の変化に応じた場合は随時介護計画の見直しを行い、利用者や家族の同意・署名捺印を得ている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録を全員で、記入し些細な事でも、共有していける様に努め、実践や計画の見直しに、役立てている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者さまの状況に応じた対応が、行える様、他の事業所との協力体制、他専門業種の方達への相談、アドバイスを頂く働きかけ等に、取り組んでいる。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の生活背景を充分に理解した上で、なじみのカフェや美容室への外出。また、訪問診療・訪問歯科・訪問美容なども、必要に応じて個別に利用できる環境づくりに努めている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療を利用されている利用者さまも多く、身体状況に応じての電話連絡や受診支援。かかりつけ医との連携が、スムーズにとれる様に、日々の入居者さまの体調の変化等をお伝えしながら、情報の共有に、努めている。	入居前のかかりつけ医に受診を継続している人には医師と家族の連携を支援し、職員は情報を共有している。訪問診療は月2回あり、訪問看護師も2回訪問し利用者の健康管理を支援している。身体状況に応じて家族に電話連絡したりする等、健康管理に留意している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療が必要な入居者さまは、訪問看護などを利用しており、随時、細かな情報や、ケアの中での気付きをお伝えし、状態を共有し、アドバイスを頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、医療関係者とのカンファレンスを行い、ご家族を交えて情報共有・交換に努めている。情報提供書作成や添付書類等の準備を行いながら、関係構築に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	デリケートな部分である為、常に細やかな報告、話し合いが保てるように取り組んでいる。終末期におけるケアの在り方なども、周知徹底に努め、職員一人一人が、話し合い、状況やご本人のご様子を共有し、チームケアで、支援を行っている。	事業所の重度化に向けた指針は入居時に説明し同意を得ている。終末期は家族・医師・管理者との話し合い、会議の中で職員全員で終末期の方針を共有しながらチームを組み、ケアの支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員となると不十分な点もあるが、研修を通して学べる機会を設けたり、介護現場において、学んだ知識であったり、技術が、急変時等に活かせる様、実践力を身に付ける体制づくりに取り組んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中・夜間想定をふまえた避難訓練を、定期的を実施し、災害時の対応を、スタッフ全員が行える様に、取り組んでいる。	夜間・日中を想定した避難訓練を年2回実施している。事業所の屋根にサイレンを取り付け、鳴ったら地域住民が駆け付けるように連携が出来ている。消防署の職員が運営推進会議メンバーに入っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念を柱とし、入居者さまの生活歴・性格・思いを尊重した取り組みを話し合い、お一人お一人のお気持ちに寄り添ったケアに取り組む様、心掛けています。	利用者個々の性格を把握し、言葉掛けや接遇にプライバシーや誇りを損ねないように行い、拒否反応が強い人には言葉掛けに工夫して対応し事業所理念に基づいて支援を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	信頼関係が築けるよう、コミュニケーションを大切に、入居者さまの思いを引き出せる様な支援を心掛けている。職員が先に決定して行くのではないという意識を、忘れずに支援させて頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おひとりおひとりの生活スタイルを把握し、見極めながら、そのひとらしく生活していける様、働きかけている。職員は入居者さまの行動や、ご表情、お言葉にも目や耳を傾けれるよう、努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お好きなアクセサリを装着して頂いたり、気候にあった衣類の選択・調整や、入居者さまの行動や外出時に合わせた支援をさせて頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感を取り入れた食事や、入居者さまと一緒に食事作り(野菜を切って頂いたり、皮むき、味見、盛り付け)等行っている。食後は、食器洗いなども共にしている。	近隣のボランティアが来て漬物を漬けたりしているが、コロナ禍で自粛している。利用者は皮むき・野菜切り・味付け・盛り付け後片づけ等を手伝っている。季節感を感じるように旬の食材を使用したり、庭の畑から収穫した野菜も食卓に並び食事を楽しんでいる。				
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者さまの身体状況に合わせた食事形態であったり、彩りや、消化の面にも配慮している。					
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、就寝時、毎食後、お一人お一人に合わせた歯ブラシやスポンジ等、使い分けを行っている。義歯を使われている方は、洗浄・消毒も行って清潔保持に努めている。					
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を参考にし、排泄パターンの把握に努めている。排泄の間隔なども見ながら、随時ご案内させて頂き、トイレでの排泄に努めている。	個々の排泄パターンを把握し、態度や顔などの様子から声掛け誘導を行い、トイレでの自立排泄に向けた支援を行っている。衛生用品は布パンやリハパン等の使い分けも行っている。				
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や食物繊維の多い食材選びを視野に入れ、取り組んでいる。天気の良い時は、散歩に行ったり、適時、歩行運動等をして頂きながら、便秘の予防に取り組んでいる。					
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前、午後を問わず、その方の入浴されたいタイミングや、状況に応じて、個々に添った入浴をお勧めさせて頂いている。	利用者の入浴希望により時間を問わず入浴出来るタイミングや身体状況に応じ、入浴時間や回数に関係なく支援を行っている。入浴を拒む人には無理強いせずタイミングを見て再度声かけをしたり翌日声かけをしている。				
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後や活動後等、また、お疲れのご様子が見受けられた時等、休息をとって頂いたりしている。居室内の温度管理や、寝具の調整。衣類の調整も行って、安眠に繋がる環境づくりに努めている。					
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬が飲みにくい状況であれば、医師との連携によって変更して頂いたり、身体の状態によっては、調整を重ねて、アドバイス・指示なども頂いている。その方によっては、服薬ゼリーなども使用させて頂いている。					
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事等に積極的に参加して頂ける場を設け、達成感や、やりがいを持って生活して頂ける様に、働きかけ支援させて頂いている。					

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により、難しい状況であるものの、天気の良い日には、回廊を散歩したり、ホーム周辺の散歩等を楽しめる様に、働きかけている。また、行きつけの美容室がある入居者さまには、ご案内させて頂いている。	コロナ禍で外出や面会などの制限はあるものの、自然環境のよい事業所周辺の散歩を楽しんでいる。庭はボランティアが手入れした花や苗植えた畑があり楽しんでいる。時には家族と相談して一緒に行きつけの美容室に行っている。家族が来て散歩を一緒にしたりしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身でお財布を持たれている入居者さまもいらつしやり、ご自身で管理する事により、安心感が得られている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族さまがお電話を下さった時には、事務所にご案内し、お電話でお話しをされていらつしやる。また、入居者さまから、お電話を掛けたいとお申し出があった時も、随時電話を利用して頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	交流スペースに、入居者さま同志で、お話出来る場所を作ったり、各所にお花等を飾ったりしながら、季節のものを取り入れ、入居者さまに季節感を感じて頂ける様に、取り組んでいる。また、心地の良い温度の調整、定期的な換気なども行っている。また、職員の声かけのトーンも、入居者さまに、ここの良いものであるように、心掛けながら支援させて頂いている。	共用部分は明るく広く清潔感がある。利用者は居室に籠ることが無く思い思いにソファに寛いでいる。庭で咲いている花を飾り季節感を感じてもらっている。温度や換気に気をつけ利用者が心地よく過ごせるように工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各所にソファを設置し、それぞれの方が座られる場所等や、くつろげる空間の居場所づくりを行っている。入居者さまが、好きな時に好きな場所で過ごして頂ける様に、支援させて頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家庭で使用していた馴染のものや、ご本人のお好きな物を、持ってきて頂き、安心して暮らせる環境づくりに努めている。(お仏壇等も)	利用者の使い慣れた馴染みのある家具や小物・備品を持ち込み、壁に家族の写真を貼って安心して生活を過せるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	カーテンの開け閉めであったり、共用スペースの電気を点けたり消したり等、その方の力を活かす事ができている。夜間はスペースごとに間接照明を設置する等、トイレがわかる工夫をしている。		